

【 会議次第 】

平成 2 9 年度 第 2 回田布施町総合教育会議

日時 平成29年11月21日(火)

午後 1 時30分 から

場所 中央公民館 2階 会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

- ・ 町長 あいさつ
- ・ 教育長 あいさつ

3 協議事項

(1) 学力向上・生徒指導について

(2) 英語教育について

4 その他

5 閉 会

平成29年度第2回田布施町総合教育会議 会議録

日 時 平成29年11月21日(火) 13:30～15:10
場 所 田布施町中央公民館2階会議室
出席者 長信町長、尾崎教育長、金長委員、櫻井委員、石田委員、谷委員
欠席者 なし
事務局 亀田総務企画課長、 本城学校教育課長、 山根学校教育課長補佐(充指導主事)、
長合学校教育課長補佐兼係長、 角田学校教育課指導主事、
中田社会教育課長、 氏下社会教育課主幹
書 記 堀総務企画課主幹

【開会(事務局)】

1 町長挨拶

この度、「田布施はってんクラブ」より、設立50周年を記念して、小学生の将来に役立ててほしいという趣旨で寄付をいただき、小学生の外国語教育充実のために英語の絵本を大量に購入させていただいた。非常にりっぱなものを揃えていただき、「田布施はってんクラブ」の皆さんが、子ども達の教育についてそこまで考えてくださっていることに感謝する。

忌憚のない意見を出していただいて、素晴らしい会議となるよう、よろしくお願いします。

2 教育長挨拶

この総合教育会議は、いじめ等に対し真摯に向き合い、町行政全体で取り扱い、定期的に、特にいじめ問題や生徒指導面について、首長に報告しながらご指導いただくものである。今日はそれに加えて、最近の学力や体力の状況について報告するとともに、英語教育等、課題となっている学習指導要領の改定についてもお示しし、ご理解賜りたい。教育委員会としてやっていることを包み隠さず報告するので、十分にご指導をいただきたい。委員の皆さんにもよろしくお願いします。

○総務企画課長 先ほど話にでた「田布施はってんクラブ」から寄贈いただいた英語の絵本の一部をお持ちした。

* 委員発言：● 事務局説明等：○

3 議事概要

(1) 学力向上・生徒指導について(議事進行：町長)

(学校教育課長補佐・社会教育課長が資料にそって説明。)

○山根学校教育課長補佐

3月に国のいじめ防止のための基本的な方針が改定された。それを受けて、県の見直しが始まり、先週の「いじめ問題対策協議会」で最終審議がされて、12月議会で知事決裁がおりることになる。その後、田布施町、そして各校の「いじめ防止基本方針」改定ということになってくる。主な改定事項は、学校評価の項目にいじめ関係を位置づけ、広く保護者、地域の方から評価をいただく。また、「学校いじめ対策委員会」に

報告を行わないことは、法の規定に違反するということで、いじめに係る事案、行動、言動をみかけたら、校内の委員会にかけること。いじめの認知をしっかりとすること。そして、いじめの認知の幅を広げていき、先生方みんなで考え、組織で対応していくというのが法で決められていることを先生方に周知していかなければならない。

国が6年間の追跡調査を行った結果、「仲間はずれ、無視、陰口をされた経験あり」が9割、「した経験あり」が9割で、いじめをされる、する経験もそうだが、いじめはどの学校でも、どの子でも起こりうるという意識を先生方に持っていただく。それと同時に、自分のクラスでいじめが起こり、なかなか解決しないときは、深刻化、長期化を防ぐためにもそれを1人で抱え込まずに組織で対応する。田布施町では、校長先生方に、「いじめに係る行為を見つけたときには、いじめが発生したことを非難するのではなく、いじめを認知したことをしっかり評価していこう。そして、組織で対応していこう。」と伝えてあり、そういう姿勢で取り組んでいる。

いじめの認知力を高めるために、アンケートや質問紙調査、ハイパーQ Uをはじめ、小6から中3を対象に、GAP（自己受容感や他者受容感）調査を行っている。GAPも進化しており、新たに、個人票で家族との関わりや友達との関わり、自分の心の表現が全部載っているのも、個人票を使って教育相談に活かしており、個々に対応し、このアンケートをもとに教育相談を行い、早期のサインを見逃さないようにしている。2つめは、子ども主体の活動を取り入れることによって、いじめを防止していこうということで、田布施町では、全学校で「成長診断テスト」を行っていて、自分たちでめあてを決めて、みんなで仲良く楽しく、いきいきと、そういう学校、クラスを目指して取り組んでいる。3番目、家庭や地域とともにということで、田布施学園構想、小・中合同のコミスクでの取組を行っている。あとは、小中共通の学校教育目標を決めて、いじめ防止にあたっている。また、地域の方からご意見をいただいて、いじめ対応にあたっている。

最後に、田布施町のいじめの状況報告を行う。平成16年度からのいじめの認知件数の推移は、上がったりがったり、急に上がったりがっている。急に上がっているのは、いじめの定義が変更されたことによる。ここで問題なのは、例えば18年度から22年度をみると、認知件数がどんどん下がっているが、子ども達の間関係が良くなったのならよいが、先生方の認知意識の低下ではないか、そのあたりは、先生方にしっかりお伝えして、しっかり認知し、みんなで取り組んでいこうという意識を高めていきたいと思っている。28年度は、小中合わせて10件。

今年8月までに教育委員会に報告のあった問題行動について報告させていただく。暴力行為は小学校では起こっていない。中学校が4件。内容は、器物破損2件、生徒間暴力2件。時間帯は、昼休みに2件、部活1件、校外1件。状況は、生徒間については、蹴る。器物については、殴る。すべて、指導や保護者への連絡も終わっている。次に、8月までに起こったいじめは、小学校で1件、スポ少のことで起こっている。今は、改善しており、3か月の見守り期間中である。中学校では2件、部活と休み時間に暴言、暴力によるいじめが起きているが、先生方に早期対応していただき、保護者への連絡、相談のもとに、現在、行為は止んでいるということで、経過観察中である。

昨年度起こったいじめ10件のうち、中学校で起こった6件について追跡調査を行ったところ、6月30日時点において、解消に向けて観察中となっている。部活中が

多く、アンケートや保護者や本人の訴えでわかった。発生後、継続的に保護者や関係機関との相談で、今は観察中となっている。

長期欠席については、不登校、病欠、その他の3種類ある。小学校長期欠席5名のうち、不登校は現在2名。SSWや地域の方に入ってもらっている。10月から特別支援学級に在籍変更し、毎日楽しく登校している子もいる。

中学校、今年度に入り、30日以上長期欠席11名。2年3名、3年8名。そのうち、不登校が9件、その他病欠2件。学校でも、保護者と連携をとって、登校できるように促しているが、なかなか難しい状況。不登校の原因は、人間トラブル、集団不適應、学業不振が主な理由。それに加えて、親御さんの子どもへの対応といった家庭環境もあるのかなと思われる。学校では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー又は関係機関、そして家庭訪問、電話連絡を継続的に行って、不登校児をなくそう、登校日数を増やそうとしている。授業や行事に合わせて登校刺激を行っている。中3で、進学意思表示がない子が2名。そのあたりも、学校と連絡を取り合って支援していきたい。

○町長 今、ご報告いただいたが、気づき等何かあればどうぞ。

●谷委員 28年度 中学校16名位。スクールカウンセラーやSSW、特別支援学級の連携によって、人数的には減少しており、町教委や先生方の個々の状況や事情にあった個別的な対応がなされている努力のあとが見られる。カウント方法、依然、17日や21日といったものもあったが。

○教育長 基本的には一緒。不登校予備軍というものもあるが、30日以上はカウントに入れる。

●谷委員 30日以下であっても、不登校予備軍がいて、その対応に手拔かりがあってはならないと思う。

○教育長 今までは、学校から30日以上をあげてこさせていたが、今は、県に報告以外で、休んだ者を少ない日数でも町教委だけにあげてくるようにしている。

○山根学校教育補佐 今、教育長の言われたように、30以上の病欠は必ずあげるが、例えば7日連続だとか、又は、昨年度不登校気味だったという情報を入れていただくようにしている。

●谷委員 ありがたい。登校を渋るというのは、病休あけや、長期休業あけとかによくあるが、実数に上がってくるというのが大切なと思う。いい対応をしておられると思う。

●金長委員 今、長期欠席の話があったが、2年生、3年生で、1年生がいない。小学校からの引継ぎがうまくいったのかどうかかわからないが、これは、時期によるのか。3年生はたまたま多いのか。ちょっと気になる。町内1校の中学校で、複数の長期不登校というのは、ゆゆしいことだと私は思っている。いろいろな手立てを講じなければならない。多分、いろいろな制度があって、カウンセリングの制度などあって、機能しているのだと思っているが、人員は足っているのか。スクールカウンセラーやSSWも十分を言えばきりはなかるうが、町当局に十分ということにもならないが、率直に「もう少しカウンセラーを充実したら、随分違うよ。」というのを現場がどんどん言われればいいと思う。

○教育長 SSWやSCについては、県の予算もあるが、田布施の場合は、町の予算をつけても

らって、必要な案件については、対応できるような状況にはなっている。不十分なときにはまたお願いするようになるだろうと思うし、こういうところで実際説明せんといけないと思うが、今のところ予算的には、町の予算も含めてうまくいっていると思う。

1年生がいない件については、本来は、1年の2学期にどんとでていた。中学校に入って、環境が全然違うということで。特に田布施の場合は、それぞれ違う小学校で違う活動をしながら、1つの中学校に集まってくるので。県下でも、1校の中学校に4～5校の小学校から入ってくる学校の不登校率は、非常に高い。なじめない。その辺を2～3年前から手を入れて、先ほど指導主事が言ったように私どももやっている。何でもっと早くやらなかったのかと言われてはそうだが、我々も研究しながらやってきて、今の1年生、2年生については、非常にその数が少なくなっている。我々の十分な対応ができていなかったことについては、もちろん反省している。3年生はその手が入らなかったために尾をひいている。1、2年については、中1ギャップの対応ができてきているということ。小学校から中学校へ、児童から生徒になるときの心模様をGAP調査等で追跡、把握しながら、中1の指導が個人的指導、きめ細かい指導で。中学校の教員は、得てして中学校に入ったのだからとポーンと投げてしまう。子ども達は戸惑う。それに加えて、部活や先輩とかあって、なかなか軌道に乗れないというのがあったが、今、良い方向にいているなという気がする。こうして、1年、2年が減ってくれば、総数は大幅に減少するという予想はしている。

○山根学校教育補佐 それにプラスして、小中連携、中1ギャップ、学力、人間関係、生徒指導もそう、今、4つの小学校が田布施中に基礎的な学力、生活規律をしっかり身につけて中学校にあげようとしている。中学校もその上にさらにという、連携を意識して取り組んでいる成果も出ているのではないかな。

●金長委員 もう一つ、いじめの方だが、男子にしか出ない、女子に出ないというのが不思議。ないにこしたことはないが、認知に意味があるのだが、女子がないというのは何かあるのか。たまたまなのか。町内もだが、県の動向として、男女比という視点があるか。私は案外女子の方が多いのではないかと素人考えで思っていたが。

○山根学校教育補佐 私も今初めて男女ということを意識した。県にもそういう統計はない。今後は、女子の方にもあるかもしれないという目で、先生方にも見てもらいたいと思う。

○教育長 県のほうも、そういう分析もしてほしいということだね。たまたま、今回は男子だけだが、どちらかというと、男子の方が多い。

●櫻井委員 集団のいじめで自殺という報道のなかで、「いじり」という言葉がでてきていたが、初めて聞くが。国語の辞書では、いじめのなかで使うような意味は出てこない。具体的に、「いじめ」と「いじり」の違いは。

○山根学校教育補佐 県の方でも、はっきりした定義はないが、自分の捉えでは、ふざけあいや、けんかの中で出てくる暴言と捉えている。違うかもしれないが。

○角田指導主事 どちらかというと、相手をおとしめるような言葉が「いじり」という感じが強いと思う。よく、漫才師が相手をおとしめて、笑いをとるような言葉をとらえて「いじり」というようなことが多いような気がする。

●櫻井委員 「いじり」という言葉がでてきたのは、最近ですね。何かいきさつがあれば教えてほしい。最近、角田先生がおっしゃったようなことが顕著に増加してきているということか。

- 角田指導主事 友達の笑いをとることに、子ども達はすごく喜びを感じているので。
- 櫻井委員 テレビの影響もあるのだろう。
- 角田指導主事 自分が笑いをとるために、他の人をおとしめるみたいな感じ。
- 櫻井委員 言う方は、あまり意識をしていない。罪悪感もないということだね。
- 角田指導主事 ほぼないと思う。
- 櫻井委員 だが、された方は、非常に傷つくであろう。
- 教育長 されたと思ったら、いじめですから。
- 櫻井委員 それと、教職員定数の問題で、8月25日の中国新聞で、文科省が、「平成30年度教職員定数3,800人を増員する」とでているが、その中で、中学校では、生徒指導を重点的に担う500人の増員を求め、いじめや不登校への対策を強化させるという記事がでていたが、ご案内のように、国の予算編成は、年度末にいつも切迫する。教育長、これに関わって、教職員定数を500人増員も含め、何かそういう動きを情報で得られているか。
- 教育長 これの一番は、通級指導。ここ10年のうちに、加配ではなく、通級教室の定数を固定して決める。今までは、加配で配置していたが、通級指導の充実は、学力向上、生徒指導の最たるもの。
- 櫻井委員 今に関わって、長欠、不登校だが、特別な支援を必要とする子どもへの対応も大切ということか。
- 山根学校教育補佐 人間関係が上手に築けない。自分の気持ち、あるいは、知らずに暴言をはいたり。そういう場合には、個々に、「こうしたらいけない。こういうふうにしようね。」と言うしかないのでは。
- 櫻井委員 教職員定数の増員は、今のことに深く関わるね。
- 教育長 うちも本当は小学校低学年から特別支援学級で教育したい子がいる。そうすると不登校が減るが、なかなか保護者に理解してもらえない。
- 谷委員 保護司をしているが、中学校で不登校百数十日位、低学力で進学ができなかった男子のその後が思わしくない。8名中2名の進路が決まらないというのがあったが、考えておられるとは思いますが、その辺のフォローアップを手厚くできたら。
- 教育長 大事なところ。なかなか卒業した子の追跡とか世話ができないというのは、これが難しいところで、その辺は町長部局と連携はしているが。
- 町長 私も保護司をやっているが、ずっとまじめにやっていたが、新聞に載っていたのであれっと思って。その後またきちっとやっている。
- 学校できちんとやっていればそういう心配はないのだろうが。社会に出て、私が預かっているときに学校に行けと言ったが、本人がどうしても自分の家のことを知っているので行けないと言うので。社会全体で考えていく問題だろうと思う。家庭の事情で学校に行きたくても行けないというという状況だけは絶対に作ってはいけないと思う。
- 山根学校教育補佐 学力の状況について、今年度4月に実施された小6、中3の全国学力テストの状況は、4つの小学校の平均を全部あわせると全国比+2.8ポイント。田布施中学校は、国語A・B、数学A・Bあわせて国と比べて+0.9ポイント、山口県と比べて△0.3ポイント。
- 全国学調の推移を表したもので見ると小・中とも全国平均より上になっているので、子ども達の頑張り、先生方の働きかけが成果に出ている。
- 各学校の推移では、麻郷小が過去6年全国より高くなっている。先生

が代わっても組織で指導できる状況になっている。また、最近西小の学力がどんどんあがってきた。麻郷小方式を含めて、授業力の向上もあると思うが、上がってきた。東小については、児童数も増えてくる、家庭環境もなかなか難しい家庭もあるということで、先生方に失望したのではない。先生方もしっかり教えている中で、なかなか個別指導までいかないという状況でこうなっている。このあたりをどう克服していくかが今後の課題。城南小も過去5年間、全国平均を上回っている状況。中学校においては、29年度△0.3というのは県。全国でいうと+0.9。上がったり、下がったりなので、平均してポイントが高くなるようにしていきたい。

○教育長 中学校がのこざりになっているのはどういうことかということ、小学校全部平均的に成績をとれば、こんなことは起こらない。一番大切なことは、4つ全部の小学校がきちっと成績を上げていかないと。中学校が手を抜いているわけではない。田布施のように4つの小学校が1つの中学校に上がるころは、すべての小学校をきちっと標準化していかないといけないので、非常に難しい。それにものすごく力を入れているが、なかなか簡単にはいかない。中学校が非常に成績がいいときは、全ての小学校が平均値を超えていることがほとんど。

○山根学校教育補佐 全国学力テストではなくて、小学校3年から実施している山口県独自のテストからみると、今の中3は、小学校4、5、6年と県平均より4ポイント程度高いが、中学校に入って、いきなり△2ポイントと6ポイントも低下し、中2でも改善されず今の中3になっている。中学校に入ってなぜ下がるかという分析が必要となる。小学校の方が、先生が手をかけすぎているというのもある。中学校に入って、いきなり離しても子ども達があたふたする。そこで、小中連携して、同じような働きかけをすることによって、学力の中1ギャップというのもなくなるのではないか。中学校の先生方の指導が悪い、働きかけが悪いというわけではないと思う。小中学校が、9年間を見通した同じような取組をすれば、中1になっても学力は順調に伸びていくのではないか。

次に、「児童生徒質問紙」について、課題と見られる生活習慣があるところも、地域・保護者に公開して、改善を求めている。具体的には、児童に訊いた質問紙では、「朝食をとっている」が全国よりも低い。「決められた時刻に寝ているか、起きているか」は、さらに国・県よりも低い。田布施の子は、朝食を摂っていない、決められた時間に寝ていない、起きていることがわかる。

小6を対象にした調査では、1日にテレビを見る時間は、「2時間以上」が全国・山口県に比べて多い。

1日あたりの勉強時間は、「1時間以上」の割合が山口県・全国よりも10ポイント以上高い。小学校の先生は、1時間以上勉強するよう声かけや宿題や自主勉強帳を作っている。それが徹底しているから、これが学力の定着につながっている。

学習塾については、通っていない割合が山口県・全国に比べて高くなっており、田布施町の子は、学習塾に通う環境にないことがうかがえる。

勉強時間を増やすためには、学校での学習や、家庭学習を充実させること。学校がどう家庭に働きかけていくか、と同時に、学校での授業をどう充実させるか。

計画を立てて勉強している割合は、全国・山口県より高く、宿題・予習・復習をしている割合は、全て、全国より高い。田布施町の小学生は、先生に言われた宿題はきちんとこなす。自学ノートを使った自主勉強はしっかりやっており、ノルマ1時間はこなしている。田布施町の4小学校で、1時間以上家庭学習をするんだという雰囲気が漂っている。

では、中学生についてみると、さらに朝食を摂っていない。決められた時間に寝ていない、起きていないというのが、小学校以上に顕著に出ている。

中3を対象にした調査では、1日あたりの勉強時間は、小学校と同じで1時間以上はするが、2時間以上はしない。小6と勉強時間は変わっていない。

1日あたりのテレビ視聴時間は、山口県・全国と比べて少ない。

学校の宿題をしているか、予習・復習をしているかでは、宿題はやっているが、時間が少ない。内容はどうか、レベルや程度の問題がある。競争意識がない。もっと勉強しようとかいう意識が感じられたら、2時間以上勉強するようになるのでは。

今、先生方をお願いしているのは、学力向上への取組みである。塾が少ない環境にあるので、学校しかないということで、家庭学習を充実させて、できる子にはどんどんさせていく、個別支援が必要な子には親切にプリントを出していくなど、宿題と自主学習のバランスをとりながら、1日2時間勉強するような宿題を課していく。それと同時に、授業と家庭学習がつながるように先生方をお願いをしている。例えば、授業が終わったら、復習をしてみようと思うような授業、子ども達が予習をしてきたら、その予習を活かすような授業をしているか。宿題をやって良かった、予習して良かったと思えるような授業をしていくことで、学力があがっていくのではないかと考えている。

○町長 「田布施は成績もいいよ」と自慢していたが、今のを聞いたら、もう少し頑張っしてほしいかなと思った。

●谷委員 基礎学力、数字からいうと小学校はまあまあ良いが、学力には2つあって、静的な学力、いわゆる学力テストA問題にみられるような知識・理解力、そして、動的なB問題にみられるような活用力・応用力といった将来に向かって生きて働く学力がある。本当の学ぶ力、学んでいく力は、動的な学力に関わっている。言ってみれば、基礎学力のカウントは、そう気にしなくてよいかなと私は思っている。A問題は、差が狭まっているが、B問題は、そうでもない。文科省も主体的かつ対話的な学びをすすめている。先般、11月6日に学校訪問をし、各学校の授業の改善状況を見ると、残念ながら、新しい主体的かつ対話的な深い学びへの授業改善の動きはやや鈍い感じがした。中には、いい授業があって、小学校では、子ども達が感じたことを自分の字でどんどん書いていって板書づくりをし、前のめりで授業に関わっているものや、中学校では、図工で、太い墨の筆で人間の輪郭を描き、後から色づけ

をしていき、体の骨格をクリアにしていくという、これなら私でもやれそうかなというようなしかけのある魅力的な授業や、英語で対話をしながら基本を学んでいく動きのある授業があった。逆に、教師の解説調の言葉を子ども達が穴埋めしていき、子どもは黙って座って聞いているという、旧態依然のプリント1枚に寄りかかって1時間がたつという授業展開が、特に中学校でかなりあり、私としては残念に思った。

子どもや生徒を学びの主人公にする仕掛けのある授業、対話的というか、子ども達を思考のつばに落とし込むような高い学び合いの質を保証し、しかけの場がどこかにないと、授業改善小中連携向上にこの2点を盛り込んだ指導をしていかないと、これから将来を担っていく子ども達に、本当の学力が身につかないのではないかと思う。今、大学受験をみても、かつて私達が経験した詰め込みの学力は、今9割くらいが使いものにならない。今は、思考力や判断力、プレゼンテーション能力といったものを評価する。自分で書いて表現するテストに近々なってくる。これに対応した学びのスタイルを築いていかないといけないのではないか。

●櫻井委員

学習には大きく分けて習得型、探求型、活用型の3つあり、この間授業を見せていただいて、小学校は習得型の学習がやや弱いのではないか。中学校は逆に、習得型に力を入れているが、探求型、そして活用型の学び合いの学習がやや弱いのではないか。私が田布施町の教育が素晴らしいと思うのは、町長さん、副町長さんはもちろんのこと、教育長さん、事務局のご指導の賜で、先ほどの家庭学習の点でも、ノート指導についても、読書貯金についてもだが、小学校と中学校が同一歩調で指導されるから、非常に素晴らしいと思った。その一つに、小学校も中学校もノート指導をしっかりやっていて、2～3年前に比べて非常によくなっている。書くことは考えることであり、話すことは思うことである。書くことは、思考によって深い学びが保証できるということで、取組としていいと思うが、小学校は、あえて教えて習得させるという鍛えるという面がやや後ろに引っ込んで、最近の主体的学び合いのある授業というので、教育長さんも指摘されたが、時流に流されて、すぐグループ学習に持っていくケースが多いのではないか。すぐ話し合いに持っていくパターンは、自力追求の場と時間の保証を阻害しているのではないか。もっと、中学校のように自力追求の場と時間を保証しないと。探求型、活動型の授業は、かなりいい方向にいつていると思う。最近の子は、鍛えて、教えこんで、記憶してという学習が欠落しているのではないか。例えば、昔は、4年生で山口県の市町村の名前と全国の県の名前を地図上で全部わかっていたが、今頃はほとんど教え込みをしないので、わかる子は少ないのではないか。この両面をはかっていくのが大事で、小学校は、探求型、活動型はいい方向にいつていると思うが、習得型が弱い。中学校は一生懸命、さっき谷先生がプリント学習云々と言われたが、プリント学習は、1人ひとりの自力追求の場と時間を保証しているといういい面があるので、全て否定しないほうが良いのではないか。小中の授業研究会の会というか、両方の得意技を刺激しあって、お互いが、小中ともに高まっていくというのが昔からの課題。中学校は一匹おおかみで、1人でやる面があるので、その辺を思う。でも、田布施町は教育長さんをはじめ、みなさんの強いリーダーシップで同一歩調で一生懸命取り組まれているのが、県下で優秀な成績をあげている1つの現れであろうと、非常に有り難く思っている。当たっていないことを申し上げたかもしれないが。

○町長

ありがとうございます。ほかには、2点目の英語教育についてお願いします。

(2) 英語教育について

○角田指導主事 外国語という教科が今度から入るということで、今後のことについてお話をさせていただきます。

まず、小学校段階では、来年度から3、4年生の中学年は15時間、5、6年生は50時間の外国語活動という教科外の時間が授業として入る。今まで35時間5、6年生が勉強していたので、15時間ずつ増えるということになる。32年度からは、3、4年生が35時間の外国語活動、5、6年生は、70時間の教科としての外国語科という勉強をすることになる。

学習内容は、中学年では、言語活動として、話す、聞くということで、外国語に慣れ親しむという活動を今後推し進めていくことになる。高学年では、それに加えて、読む、書くという勉強を入れて、教科としての学習をする。というふうに、今後小学校での学習が変わっていく。

中学校では、31年度、今の中1が中3になったときに、希望調査で全国学力学習状況調査の英語テストが入る。これについては、希望したらということだが、ここには、今までなかった話すという評価が入る。これまでは、「聞く、読む、書く」のみのテストだった。また、小学校からそれぞれ15時間とか、50時間とか勉強してきた子どもが上がってくるので、31年度からは、6年間、毎年毎年少しずつ学習履歴の違う子どもが中学校に入ってくるということになる。平成34年度になると、「話す」の入った英語のテストが全国で学力テストとして行われるようになる。

では、高校ではどうなるかということ、31年度から基礎学力テストとして、高校生版の全国学力テストが始まる。将来的には、民間の英語検定試験の結果が英語の単位となる予定。大学入試については、平成32年度からは、今までのマークシートの試験に加えて、民間の英語検定試験の結果を大学入試の点数に加算するということが決まっている。36年度からは、英語の試験については民間の英語検定試験に全面移行する予定。このように、今後の流れとしては、どんどん学校の教育の中に民間の英語検定試験が導入されて、英語の評価、特に話すという評価をきちんとしていかななくてはならなくなる。

そこで、田布施町としては、ALTとともに、ネイティブの発音で会話をする回数、授業をできるだけ増やしたい。それから、英語検定試験というものに慣れていってほしいと思っている。外部で行っている英語検定試験というものはたくさんある。多分、こういう英語検定試験が大学入試の問題になると思われる。

この中で、小学校段階から取り組めるものとしては、英検とGテックとなる。そのほかのものは、小学校ではレベルが難しすぎてできない。英検・Gテックという検定試験が可能なのではないかと考えている。Gテックのテストについては、小学校から同じ試験の成績を累積していくことができる。また、Gテックはベネッセが作っているので、全国学力学習状況調査というテストの会社と同じ所がやっているので、どんどん記録を残していけるというところはとても役に立つのではないかと。英語の教育については、以上である。

続いて、田布施町の小中学校の児童生徒の体力についてまとめた。体力テス

トの合計点は、小中学校、男女ともに県内1位、2位という体力を持っている。
「学校の体育以外で、どの位スポーツをしているか」は、学校以外ではあまりスポーツをしていない。総合的にみて、田布施町の児童生徒は、運動能力は非常に優れているが、これは、学校以外ではあまりやっていないので、学校の教育活動の中で体力、運動能力が伸びているということが言えるのではないか。

○町長 ありがとうございます。最後のが非常に気になるが。

●金長委員 今の最後の、昔は良くなかったでしょう。この度、1位、2位で、何これ、トップじゃない。最近の流れか。

○山根学校教育補佐 ここ最近である。

○角田指導主事 これは、昨年度の結果である。

●金長委員 今までずーとではないような気がして。すごいなあと思って。

○教育長 26年からとっている記録では上位を占めている。

●櫻井委員 教員定数のことだが、文科省は、英語の定員を増やすという動きはあるか。

○教育長 ない。増やすのは、指導者教員。

●櫻井委員 小学校では、英語の指導面で、教員がついていけるかという不安もある。

○角田指導主事 現在、県のほうで研修を行っていて、英語力の向上に努めている。県で300名の小学校教員、中学校は英語教員全員が受けており、毎年のように何人もの教員が英語研修に行っている。ただ、学校の中では、2名とかなので、その者が、学校の中で広めるようお願いしている。

○教育長 明日14時から、麻郷小学校でペリースクールとの交流会がある。保護者を入れて百数十名位いるが、経済課の地域おこし協力隊員の協力を得て、事前学習を行い、初めて英語で対応、交流する。結構、能力があり、かなりの会話ができる。4技能がほとんどできる。時間があれば、行ってみられたら良い。

○本城学校教育課長 英語教育について、町教委の宿題というか研究材料となるが、民間の英語検定試験の結果が大学入試に関係する予定である。また、田布施中の英検の受検率が非常に低いので、それを上げていかななくてはならない。議会でも補助したらという意見もあった。今後の流れとして、小学校の英語の時間数も増えてくるので、ALTの授業時間数の確保を町にお願いしたい。

●金長委員 ALTとの業間のふれあいとかも大事と思うので、授業だけでなく少し長くいていくるように、町長さんにお願いしたい。

○町長 昔は、「日本語ができん者が、英語の勉強などもってのほか」という考え方もあったが、今はそういう時代でもないし、私の経験からも、少しでも本物に触れることが役立つのではないかと感じている。

事務局でその他何かあればお願いしたい。

年2回の総合教育会議で、首長がトップに据えられているのも、いじめ等の問題のほか、教育予算のこともあるのだと思う。今後もしっかりと受け止め、すばらしい教育にしていきたいと思っているので、よろしくお願いします。

以上で総合教育会議を終了する。

【閉会】